

新型コロナウイルス対策 行動ルール (委託事業者等向け)

(2021年3月19日時点)

Introduction

1. 本行動ルールの目的

東京 2020 大会には、職員、ボランティア、コントラクターなど 20 万人以上の大会スタッフが活躍します。大会スタッフは役割や雇用・契約形態により複数の種別に分かれ、アスリート・観客・メディア・オリンピックパラリンピックファミリーなど様々な大会関係者と接します。従って、様々な大会関係者と接する大会スタッフへの感染症対策は極めて重要になります。大会スタッフが本行動ルールを意識して業務・活動にあたることで、大会運営が滞りなく実施されることを目的に策定しております。

2. 本行動ルールの位置づけ

大会運営準備に携わるコントラクター等向けに規定する行動ルールです。なお、会場での事態対応等を盛り込んだ新型コロナウイルス対策ガイドライン(大会スタッフ向け)(仮称)については、2021 年 4 月に展開予定です。

3. 本行動ルールの対象範囲

コントラクター、パーティシパント、その他専門人材

新型コロナウイルス対策行動ルール（委託事業者等向け）

1. マスクの常時着用

（1）基本的な考え方

マスクの着用は、新型コロナウイルス感染症などの感染拡大を防ぐ可能性のある包括的な予防・制御策の一部である。マスクは、健康な人の予防（感染者との接触時に自分自身を保護するために着用）または感染源の管理（感染者が他者に感染させないために着用）の目的で使用できる。大会スタッフ一人ひとりの基本的な感染対策を図るため、各大会スタッフは業務・活動中のマスクの常時着用を原則とする。なお、フェイスシールドはマスクの代替として使用しないことを原則とするが、体調上の理由でマスクができない方又は活動内容（配慮・サポートが必要な人への対応）によっては、マスクの代替としてフェイスシールドを着用することを可とする。ただし、フィジカル・ディスタンスの確保や配置上の工夫など他の対策で感染リスクを抑えられるように留意する。また、大会スタッフはマスクの紛失や破損・汚損の場合に備え、各自予備分も持参する。なお、着用時には、強い負荷の作業は避け、熱中症防止の観点からこまめに水分補給を心掛ける。また、屋外では周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的に外すことも必要である。

（2）基本的なルール

- ① 業務・活動中は原則、必ず正しい方法（鼻・口・顎をしっかり覆う）でマスクを常時着用する。
- ② 暑さ対策として屋外で外す時は人と2m以上離れるように心掛ける。
- ③ マスクの表面には触れないように心掛ける。
- ④ マスクを外す際には、ゴムやひもをつまんで外し、手洗い・消毒する。
- ⑤ ログ等がついておらずアンブッシュ／クリーンベニュー原則に抵触しないものを着用する。
- ⑥ 諸事情によりマスクができない場合は、現場の責任者に相談の上、必要な措置を講じる（例：フェイスガード着用やスカーフ等）。

2. 手洗い・手指消毒の徹底

（1）基本的な考え方

ウイルスは皮膚（数時間）やモノ（数日間）の表面に付着し、業務・活動中は競技備品、各種機器、紙など様々なモノに触れる機会があるため、接触感染を防ぐ観点からこまめな手洗いが重要である。会場内に手洗い場所がない場合は、手指消毒を行う。

【参考情報】

手指に付着しているウイルス量は、流水による15秒の手洗いだけで1/100に、石けんで10秒もみ洗いし流水で15秒すすぐと1/10,000に減らすことができ、さらにこれを2セット実施すると1/1,000,000減少できる。



出典：（参考文献）森功次他：感染症学雑誌. 80:496-500(2006)

(2) 基本的なルール

- ① 業務・活動中はこまめに手洗いまたは手指消毒を行う。
 - ➡特に、休憩及び食事前後、マスクを外した後、手袋を外した後、モノやヒトと接触した後など
- ② 業務・活動中に手袋している状態でも、物への接触後等はアルコール消毒を行う。
- ③ 手洗い後は、各自持参する清潔なタオル等で拭う。
- ④ 諸室に入出時には、アルコール消毒液による洗浄を徹底する。
- ⑤ 手洗い・手指消毒をしていない状態で、目・鼻・口を触らないこと。

① 手洗い

正しい手の洗い方

手洗いの前に

・爪は短く切っておきましょう ・時計や指輪は外しておきましょう

1



流水でよく手をゆらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。

2



手の甲をのぼすようにこすります。

3



指先・爪の間を念入りにこすります。

4



指の間を洗います。

5



親指と手のひらをねじり洗います。

6



手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

正しい手指消毒

手洗いの基本とタイミング

- 手洗いの方法
通常は、「エタノール含有消毒薬による手指消毒」を行います。
目に見える汚れがついている場合は、「液体石けんと流水による手洗い」を行います。
- 手洗いのタイミング：
入所者に触れる前後、ケアの前後、入所者の周囲の環境や物品に触れた後 等

エタノール含有消毒薬による手指消毒

1



十分な量を手の平に取ります
Get an appropriate amount of product in a cupped hand

2



手のひらをこすりあわせませ
Rub hands palm to palm

3



手の甲を合わせてすりこみます
Palm to palm with fingers interlaced

4



指先・爪の間にすりこみます
Rub your palms and fingertips and under nails

5



指の間にすりこみます
Rub in between the fingers

6

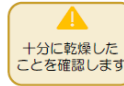


親指をねじり合わせてすりこみます
Rub each thumb clasped in opposite hand using a rotational movement

7



手首にすりこみます
Rub each wrist with opposite hand



十分に乾燥したことを確認します

出典：厚生労働省 HP (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000634132.pdf>)

手洗いの、5つのタイミング

公共の場所から帰った時



咳やくしゃみ、鼻をかんだ時



ご飯を食べる時



前と後！

病気の人のケアをした時



外にあるものに触った時



出典：厚生労働省 HP

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00094.html)

3. 3密の回避やフィジカル・ディスタンスの確保

(1) 基本的な考え方

会場に多くの人々が集まる中で、感染拡大の予防徹底を図るためにはマスク等の着用を徹底するとともにいわゆる3密（密集・密閉・密接）の環境を避けるあるいは作らないことが重要である。

- ・密集・・・ミーティング手法などの工夫※、人数制限など人が密集しない・させない方法を工夫。

※回数を必要最小限とする、人との距離を確保、屋外での実施、ボードでの周知、もしくは事前にメールで周知。

- ・密閉・・・各諸室において窓やドアを開けるなど換気の徹底。
- ・密接・・・各諸室や現場におけるフィジカル・ディスタンスの確保の徹底。

飛沫感染を防ぐためには、他人からできるだけ2m、1m以上の距離を保つ必要がある。また、座席も正面に座らないなどの工夫が必要である。競技会場・非競技会場でも、多くの人々が集まるため業務・活動中に3密にならざるを得ない場面もあるが、極力、人との距離と向きを意識した行動に努める必要がある。一方で配慮・サポートが必要な人などと接するサポートは、正面での対面を避けながら通常通りの距離で対応し、マスク着用の徹底、事前事後の手指消毒等の必要な対策を取るようにする。

(2) 基本的なルール

- ① 人と接するときは常に距離（できるだけ2m、最低1m以上）と向き（斜め・横並び）を心掛ける。
- ② 列を作る際は1m以上の距離を取るよう周知するとともに、正面からの対面を避け、会話を控える。
- ③ 配慮・サポートが必要な人などのサポート、観客サービス等で相手方の手荷物・身体に触れざるを得ない場合は正面からの対応を避けつつ、通常距離で行い、マスク着用の徹底と事前事後に手洗い・手指消毒を行う。

4. 咳エチケットの遵守や大声を出さない

(1) 基本的な考え方

インフルエンザをはじめとして、咳やくしゃみの飛沫により感染する感染症は数多く報告されている。そのため、業務・活動中における「咳エチケット」の徹底を周知する必要がある。咳エチケットは感染症を他人に感染させないために、個人が咳・くしゃみをする際に、①マスク、②ティッシュ・ハンカチ、③袖を使って、口や鼻をおさえることである。また、向きにも留意する。

また、役割によっては、業務・活動中に大声で周りの方に伝達する場面も考えられるが、それにより周囲に飛沫が拡散する恐れがある。そのため、業務・活動中は会場内で大きい声を出さないことを徹底する。

(2) 基本的なルール

- ① 咳エチケット（咳・くしゃみなどをする時はマスク、ティッシュ・ハンカチ、袖を使い、鼻口をおさえる）を遵守する。
- ② 役割上大声を出す必要がある場合は、事前にフィジカル・ディスタンスの確保や周囲に人がいないか確認する。
- ③ 咳などをしてしまう場合は、人がいない向きで行うようにする。

5. 食事・休憩時のルールの遵守

(1) 基本的な考え方

ダイニングエリアは大会スタッフが食事・休憩する場所であるが、飲食中の感染、休憩中の感染は、これまでも新型コロナウイルス感染の発症例として数多く報告されており、大会スタッフの安全・安心を守る観点から、最も対策に力を入れるべきエリアの一つと考えられる。特に食事中・休憩中は飛沫感染・接触感染の両方のリスクが高いためソフト面・ハード面での対策が必要である。

(2) 基本的なルール

① 食事中のルール

(ア)食事前に手洗いする。

(イ)原則、正面の席・隣席をあけることを基本とするが、混雑状況に応じて、隣席・正面に座ることを可とする。

- (ウ)食事中でも口の中に食べ物・飲み物を入れる時以外はマスクを着用し、会話しない。
- (エ)食事を終えたら、設置されている除菌シートでテーブル等を拭き取り、速やかに席を離れる。
- (オ)食後、再度手洗いする。

② 休憩中のルール

- (ア)休憩前後は必ず手を洗う。
- (イ)会話をする場合は、必ずマスクを着用する。
- (ウ)休憩は混雑を避けた場所を選ぶようにする。

6. 握手やハイタッチの自粛

(1) 基本的な考え方

新型コロナウイルス感染症の状況下では、過去大会での慣行だった大会スタッフ間又は大会スタッフと観客のハイタッチや握手は感染リスクを減少させる観点から自粛する。これに代わり、エアタッチや新たな挨拶形式を考案・工夫を凝らしていくことが望ましい。万が一、観客等が強く求めて断り切れない場合は、コミュニケーションとして応ずるものの事後に手洗い・手指消毒を行う。

(2) 基本的なルール

- ① 他者との握手・ハイタッチは自粛し、接触が伴わない形式で挨拶を交わす。
- ② 観客等から握手を求められ断り切れない場合は、これに応ずるものの事後に手洗い手指消毒する。
- ③ 接触を伴わない形式での挨拶を積極的に交わす。但し、フィジカル・ディスタンスには配慮する。

7. 共用品等の除菌

(1) 基本的な考え方

ウイルスは共用する物品や建具など、様々な所に付着する可能性がある。そこから、手指を介して感染するというケースも十分考えられるため、各会場内で人の手に触れうるものについては、ウイルスに有効な薬剤をしみこませたタオルや拭き取りシートなどを用いて除菌する必要がある。

特に共用物品・備品で多数の人等の手に触れる共用物品については、除菌を行うようにする。なお、除菌する共用品等は予め把握した上で、除菌した際にはチェック表をつけることが望ましい。

ウイルス等の付着したゴミについては、適切に処理をしなければ、それ自体が感染源になりうる。したがって、鼻水、唾液などが付いたティッシュや使い捨てマスク、使い捨て手袋などウイルスが付着している可能性のあるごみは、ゴミ箱に入れて捨てる際はゴミ袋を密閉して縛る。

(2) 基本的なルール

- ① 共用物品等や人の手が触れる所については、チェック表を元にこまめに除菌を行う。
- ② 除菌の際は、消毒剤・拭き取りシートの用具を用いて行う。
- ③ 唾液、鼻水を拭いたティッシュ、使い捨て手袋、使い捨てマスク、などは、ゴミ箱に捨て、その後必ず手洗い・手指消毒をする。

8. 室内換気の実施

(1) 基本的な考え方

新型コロナウイルス等の微粒子を室外に排出するためには、こまめに換気を行い、部屋の空気を入れ換えることが必要である。冷房時でも室内温度が大きく上がらないよう注意しながら、定期的な換気を行う。窓を使った換気を行う場合、風の流れができるよう、2方向の窓を、30分に1回以上、数分間程度、全開にする。1方向しか窓がない場合は、ドアを開けるか、天井や壁の高い位置にある窓を追加で開ける。

(2) 基本的なルール

30分に1回、数分間程度、窓やドア等をあけ、室内の喚起を行う（但し、会場・諸室の設備の状況による）。

9. 体調管理の徹底

(1) 基本的な考え方

新型コロナウイルスに感染しないためには、各大会スタッフが平素から自発的に健康管理を行うことが重要である。また、大会時においては、全大会スタッフに体調管理ノートの記入、各種アプリを通して健康管理を図ることを検討していく。

大会スタッフ一人ひとりの感染予防を図るとともに、集団感染を防ぐためにも、少しでも体調が悪い人などは出勤・参加しないよう呼びかけることが重要である。特に基礎疾患のある方や高齢者の場合、万が一業務・活動中に感染した場合、重症化することもあるため、出勤・参加の自粛を呼びかけることが重要である。

(2) 基本的なルール

- ① 体調管理ノートを用いて、自主管理を徹底する。
- ② 体調管理ノートのチェック項目に該当した場合、少しでも体調が悪い時は休む・帰宅する。
- ③ 体調が悪そうなスタッフを見かけたら休憩を促す。また必要に応じて帰宅させる。
- ④ 基礎疾患を有する方や高齢者の方は、健康・体調に十分注意して業務・活動する。
- ⑤ 接触アプリ・健康管理アプリなどを通じ、健康管理を行う。
- ⑥ 平素から体調管理に努める。

10. 業務・活動時間外の行動ルール

(1) 基本的な考え方

大会スタッフに欠員が生じた場合、特に大会スタッフ間でクラスターなど発生すると
ると、大会運営に重大な支障を来すことになるため、業務・活動時間外においても、大会
運営の中枢を担う大会スタッフは下記項目に注意すること。

(2) 基本的なルール

① 業務・活動開始日の 14 日前から業務・活動終了時まで以下について注意すること。

(ア) 集団での会食の自粛

(イ) 不要不急の外出の自粛

(ウ) 外出時のマスク着用

(エ) 3密空間の出入りの自粛

(オ) 小まめな手洗い・手指消毒の徹底